

■ 人工衛星など利用し除雪車を自動制御

広島工業大学

環境学部地球環境学科の菅雄三教授は、日本版全地球測位システムなどを利用して除雪車の除雪板を道路の状況に応じ自動で制御する技術を開発した。

受信機などを搭載した除雪車は、準天頂衛星「みちびき」による精密な位置情報とレーザー測量から得た道路の形状情報を組み合わせ、雪下の橋の継ぎ目などを自動で回避して雪をかき分ける。

菅教授は新潟県での実験＝写真（©東日本高速道路新潟支社／広島工業大学）＝

や、日本建設機械施工協会中国支部との実験で時速10キロで運用できることを確認した。

さらに実験を重ね、2022～23年に時速50キロでの走行実現を目指す。現在は作業員1、2人で運転と除雪板操作をするが、自動制御によって1人でも安全で効率的な除雪作業が可能になる。

